



岩山行きミャンマーのバス

首都ヤンゴンの空港の建物を... 出て先ず乗るのが大型貸切りバスであるのだが、私達を待つていたのは驚いたことに行き先「岩手山」...

連載 ビルマの豎琴は音もなく

—ミャンマーのパゴダ巡り④ 齊藤久仁子

んでは楽しんでいたものであるが、そのうちに珍しくなくなつて気にしなくなつた。扉には「自動扉指に注意」...

乗るバスだ。日本の使い古し軽トラックの荷台に柱を四本立てて上に板を打ちつけて屋根とし、座席は両側に二本、縦に板を打ちつけたものだ。大



山盛りに人を乗せたバス

るが、字だけはそのまま残してある。運転席の後ろの広告もそのままで、名古屋市内を走っていたものと分かつたりする。ミャンマーのものに塗り変える手間を省くという

型バスの入らない山の山の仏塔へ参る時、私達も何度かこれに乗ったが、いやはや、すごい埃と風に帽子を飛ばされないうに持ち、前後左右のひどい揺れに上下動も加わつて、振り飛ばされまいとすると、荷台枠や柱にしがみついても手が痛くなる。ところが現地の人ときたら、ぎゅうぎゅう詰めうえ、左右後ろにぶら下が

真宗学寮百周年

十月一日(日)

○慶讃法要・記念式典

○記念法話

梯實円(本派勧学)

「真宗の救い」歓喜と慶喜」

○記念ソポ

「安雲門徒の百年と

「パネラー」

梯 實円(本願寺派勧学)

松田正典(広大名譽教授)

水原史雄(元中国新聞記者)

藤澤桂珠(司教・真宗学教授)

「コーディネーター」

岩崎智寧・築田哲雄

(広島仏教学院講師)

○記念法話・御示談

二日 佐々木高彰(節談)

三日 深川倫雄(本派勧学)

四日 霊山勝海(本派勧学)

五日 稻城選患(本派勧学)

真宗学寮

一九〇六(明治三十九)年に高松樟峰(勸学)を学頭として、広島市に創設された浄土真宗の私塾。広島伊豆教院も併設する。第三代学頭に岩崎俊雄(西教寺前住職、現在は学寮教授として岩崎正衛(西教寺住職)がお世話になつています。

後ろから来た車はビービー警笛を鳴らしてバス客を避けさせようとする。見ていては知らず、せめて公共交通機関だけでも右側通行に合わせたものにすればいいものを。(続)

第八回広島真宗カウンスリング学習会

去る、七月七日〜八日、広島別院で公開講義と体験学習が行われました。七日午前中は「みみずくの会」も行われました。みみずくの会とは、野球の試合で言うところ、キヤッチボールにあたる「聞く」「話す」の基礎練習をする会で、毎月別院で行われています。色んな意味で生きづらい時代、問い合わせも多く、カウンスリングに対する関心も高いようです。じっくり時間をかけて、自分に向き合う、また話を聞いてもらうということは、大切だと思います。



公開講義の様子